

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	社会調査法 (Social Research Method)					担当教員	瀧波 慶信 (タキナミ ヨシノブ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL/協同学 習型AL/資格対応科目
	2036-0-33-081	専門科目	選択	2単位	3年次	後期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL/協同学 習型AL/資格対応科目
	2436-0-33-020	専門科目	選択	2単位	3年次	後期		

① 授業のねらい・概要						
社会調査の歴史や目的、方法論や倫理といった社会調査の意義について学習する。次に社会調査の諸類型や実際に行われている官公庁の統計調査や、企業のマーケティング調査など、さまざまな社会調査についての知識を習得する。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
専門的知識・技能を活用する能力/情報収集・分析力を養う						
③ 授業の進め方・指示事項						
講義形式であるが、受講生自らが資料等の調査・分析をすることが必要。小課題提出が求められる。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
特になし。						
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。						
伊達平和、高田聖治(2020)『社会調査法』学術図書出版社						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
大谷信介、木下栄二、後藤範章、小松洋(2023)『最新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房						
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
日ごろから社会の動きに関心を持って生活すること。大学生はどうあるべきかをよく考えて講義に臨むこと。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 社会調査の意義を理解する。 (2) 質問票を作成し、社会調査を行うことができる。 (3) 社会調査の結果から諸課題解決の方策を提言できる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	社会調査の意義	社会調査の意義や必要性を理解することができる	社会調査の意義を理解できる	社会調査が行われていることは理解できる	社会調査が行われていることが理解できない	社会調査の意義について考えることをしない
(2)	質問票を作成し社会調査を行う	質問票を作成し社会調査の方法を用いて分析できる	質問票を作成し社会調査の方法を理解できる	社会調査の方法を理解しようとする態度はある	社会調査の方法を感じることはできない	社会調査の方法を考えることができない
(3)	諸課題解決に向けての提言	現実の諸課題について理解し、解決策を提言できる	現実の諸課題について理解できる	現実の諸課題についての理解が不十分	現実の諸課題について理解しようという態度は見受けられない	現実の諸課題について全く理解できない

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	50%		50%				100%	
(1) 社会調査の意義の理解	10%		10%				20%	
(2) 社会調査の実行	20%		20%				40%	
(3) 社会調査の結果を活かす	20%		20%				40%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	提出レポートにコメントを行う。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	ガイダンス	授業の概要、進め方						120分
2	社会調査の歴史	社会調査の理解のための基礎理論						120分
3	社会調査における倫理	社会調査を行う上での注意点						120分
4	社会調査の目的（問題意識）	調査を行うときの問題意識						120分
5	社会調査の目的（調査目的）	調査を行う目的						120分
6	調査の方法（面接調査）	面接調査について考える						120分
7	調査の方法（郵送調査）	郵送調査について考える						120分
8	調査の実際（量的調査）	量的調査について考える						120分
9	調査の実際（質的調査）	質的調査について考える						120分
10	調査の実際（統計的調査）	統計的調査について考える						120分
11	課題実習（年金問題）	年金問題についての調査						120分
12	課題実習（育児問題）	育児問題についての調査						120分
13	課題実習（調査法の違い）	用途に適した調査						120分
14	課題実習（調査結果分析）	調査結果の分析を行う						120分
15	まとめ	調査の課題						120分
⑫ アクティブラーニングについて								
毎時間、受講生は授業の最後に本時に学んだ内容をまとめる。								

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性